

令和元年度 自殺予防週間

9月10日(火)～16日(月・祝)

待っています あなたの声を

閤健康介護課 TEL22-6838(自殺対策計画・SOS教育)
閤学校教育課 TEL22-6844(SOS教育)

山県市いのち支える自殺対策計画

国をあげて自殺対策に取り組んできた結果、現在自殺者は減少傾向にあります。しかし、平成30年も2万人以上の人が自殺で亡くなり、山県市でも平成21年から30年の10年間の間に53人が亡くなっていることから、さらなる取り組みが必要です。

このため、市では昨年度、「誰も自殺に追い込まれることのない山県市」の実現を目指して、自殺対策計画を策定しました。

平成29年における全国の死因順位別にみた年齢階級・性別死亡数・死亡率・構成割合

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	自殺	100	1.9	22.9	悪性新生物	99	1.8	22.7	不慮の事故	51	0.9	11.7
15～19歳	自殺	460	7.8	39.6	不慮の事故	232	3.9	20.0	悪性新生物	125	2.1	10.8
20～24歳	自殺	1,054	17.8	52.1	不慮の事故	335	5.7	16.6	悪性新生物	174	2.9	8.6
25～29歳	自殺	1,049	17.5	46.1	不慮の事故	288	4.8	12.7	悪性新生物	269	4.5	11.8
30～34歳	自殺	1,280	18.6	39.3	悪性新生物	616	9.0	18.9	不慮の事故	262	3.8	8.1
35～39歳	自殺	1,366	17.8	28.8	悪性新生物	1,145	14.9	24.1	心疾患	429	5.6	9.0
40～44歳	悪性新生物	2,649	28.5	30.0	自殺	1,628	17.5	18.5	心疾患	991	10.7	11.2
45～49歳	悪性新生物	4,764	51.2	34.0	自殺	1,872	20.1	13.4	心疾患	1,769	19	12.6
50～54歳	悪性新生物	7,267	90.5	38.1	心疾患	2,393	29.8	12.6	自殺	1,830	22.8	9.6
55～59歳	悪性新生物	12,211	162.7	44.4	心疾患	3,377	45.0	12.3	脳血管疾患	2,022	26.9	7.3
60～64歳	悪性新生物	21,238	274.5	47.3	心疾患	5,424	70.1	12.1	脳血管疾患	3,147	40.7	7.0

出典データ 厚生労働省「人口動態統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

平成25年から29年の5年間で、山県市でも15歳から19歳で2人が自殺で亡くなっています。

施策1

自殺対策におけるネットワークの強化

自殺対策の推進にあたって基盤となるのが、地域におけるネットワークです。自殺対策に関する会議だけでなく、これまで実施してきた会議なども自殺対策の視点を加えて引き続き実施していきます。

施策2

自殺対策を支える人材の育成

さまざまな専門家や関係者だけでなく、市民に対しても研修などを開催することで、地域のネットワークの担い手、支え手となる人材を幅広く育成します。教職員や民生委員、市民が集まる場所で、ゲートキーパー研修や自殺対策に関する情報の提供を行います。

施策3

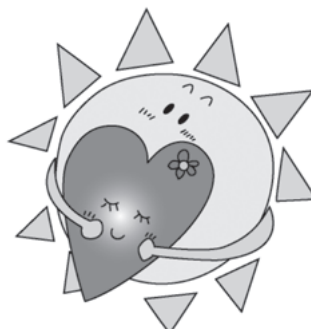
市民への啓発と周知

地域のネットワークを強化し相談体制を整えても、その存在を知らなければ制度は活用されません。そこで、相談機関に関する情報を、さまざまな接点を生かして提供するとともに、自殺対策に対する理解が深まるようなイベントを開催します。

施策4

生きることの促進要因への支援

自殺に追い込まれる危険性が高まるのは「生きようと思う気持ち」よりも「死にたいと思う要因」が上回った時です。そのため「死にたいと思う要因」を減らすための取り組みだけでなく、「生きようと思う気持ち」を増やすための取り組みを合わせて行うことで、自殺リスクを低下させる必要があります。



施策5

児童生徒のSOSの出し方に関する教育

詳しくは次ページをご覧ください。



自殺予防週間 待っています あなたの声を

子どもたちのいのちを守る取り組み

平成の30年間、全国における19歳以下の子どもたちの自殺者数は減少しておらず、山県市においてもひとごとではありません。

これまでも学校を中心に自殺対策の基盤となる教育として、「生命を尊重する教育」「心身の健康を育む教育」「温かい人間関係を築く教育」を行ってきました。その他、健康観察、相談体制づくり、生活アンケートの実施など校内の環境づくりも行ってきましたが、これらの活動も引き続き大切です。

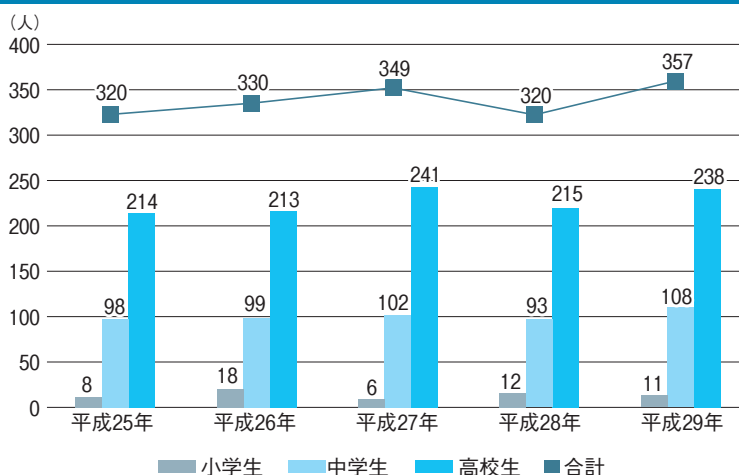
SOSの出し方に関する教育

子どもたちは、これまでの短い人生の中で、ストレスや悩みを抱え、対処法の選択肢が少ないため自殺を選んでしまう子もいます。また、ストレスや悩みを相談するという選択肢自体を知らない子どももいます。

現在はSNSが普及し、顔の見えない誰かに相談する子どもも増えており、その結果トラブルに巻き込まれることもあります。これらのことから、ストレスや悩みの対処法の選択肢の中に、顔の分かる「信頼できる大人に相談する」「SOSを出していいよ」ということを伝えていく必要があります。

※まちの話題15ページに先月開催した研修について記事を掲載してあります。

全国の小・中・高等学校の自殺者数(平成25～29年)



出典データ 「平成25年から平成29年における自殺の状況」(警察庁生活安全局生活安全企画課)

悩みがあったら まず相談してください 市役所相談窓口

借金、契約トラブル	市民環境課	Tel22-6828
生活困窮	福祉課	Tel22-6837
いじめ、学業	学校教育課	Tel22-6844
配偶者暴力、子育て、児童虐待	子育て支援課	Tel22-6839
無気力、不眠、ひきこもり、健康、介護	健康介護課	Tel22-6838

こころの健康相談統一ダイヤル

おこなう まもろうよ こころ
☎0570-064-556

〈有料〉
相談対応曜日・時間は都道府県によって異なります。

電話をかけた所在地の都道府県・政令指定都市が実施している「こころの健康相談電話」等の公的な相談機関につながります。

SNS相談事業

厚生労働省 SNS相談

検索

よりそいホットライン 24時間対応

一般的な生活上の悩みをはじめ、生活困者等に対する総合的な電話窓口です。
フリーダイヤル つなぐ ささえる

☎0120-279-338

☎03-3868-3811 FAXでの相談の方

支援情報検索サイト

電話、メール、SNSなど様々な方法の相談窓口をご紹介します。

支援情報検索サイト

検索